

思いやりのある心を育て、命の大切さを学ぼう

文京区立誠之小学校

●住所：文京区西片2-14-6 ●連絡先：03-3811-7171

●学校長：西田 義貴

活動の種類	活動の単位	活動期間	教育課程上の主な位置づけ
健康・安全、奉仕、 生命尊重	全校	通年	特別活動・生活科・ 総合的な学習の時間

活動のねらい

特別活動、生活科、総合的な学習の時間を中心に、人のために役立つ児童の育成を目指す。

青少年赤十字活動(JRC)、ボランティア活動、環境保全に関わる活動などを保護者や地域の方々とともに行うことを通して、思いやりのある心を育て、命の大切さを学ぶ。

具体的な活動内容

1. JRC活動

JRCとは、ジュニア・レッド・クロスの略である。

JRC活動を知り、その活動に全校児童が協力して取り組んでいこうという気持ちをもつとともに、ボランティア精神をもって日々の生活を送ろうとする気持ちを養うことを学校全体でめあてとしている。

世界で困っている人のために、少しでも役に立とうという気持ちを持ち、ユニセフ募金も行っている。

ベルマークの箱に期間中イラストを描き、協力を呼びかけ集めている。年間を通して、玄関に設置場所を設け、エコキャップ集め、古切手集めを行っている。



ベルマーク収集

2. JRC登録式

5月にJRC委員会の児童が登録式を行った。JRC活動とは子供たちが命と健康を大切に、身近な人々も含め、世界の平和や人々の幸福のために行う活動である。この取り組みは、世界の人々を理解し、よりよい人間関係を作ろうとする気持ちを育てることだということ学んだ。

赤十字代表の方から、JRC委員会に青少年バッジを授与していただいた。その後「誓いの言葉」を全校児童で唱え、学級の代表児童が登録の署名を行った。



JRC登録式



署名

3. 防災宿泊体験

5月に、自分で自分の命を守る力を身に付けるために学校に宿泊する防災宿泊体験を行った。この活動を通して、災害時、自分たちができることを見付け、行動する力を養い、学習したことを全校・家庭・地域に広げる。そして、集団生活を通して、協力し合い、自らすずんで責任をもって行動する態度を養っている。



消火器訓練

4. ふれあい給食

毎年、6月に2年生が生活科の学習の一環として、ふれあい給食を行っている。給食時間を中心に祖父母とふれあう活動を通して、児童の思いやりの心を育てることをめあてとしている。

給食のみではなく、一緒にゲームをしたり、児童の発表を見たりしながら、祖父母とのふれあいを深めた。



ふれあい給食

5. ピカピカ月間

11月から12月にかけて、校内、学校周辺の落ち葉掃きを児童と全職員でボランティア活動として体験する活動である。約1か月の間に、朝の時間を活用して、各クラスごとに担当教諭と毎日担当場所を決めて清掃する。

6. わくわく班活動

月に1度、異学年交流活動としてわくわく班活動を行っている。一緒に給食を食べ、清掃し、交流を図る活動である。この活動は異学年と交流し、協力して活動する楽しさを味わい、思いやりや尊敬の気持ちをもち、望ましい人間関係を築くことを目的としている。

また、12月にロングわくわくタイムを実施し、1時間の特別活動でわくわく班の班長を中心にゲームを考え、異学年と仲良く遊んだ。



わくわく班給食



わくわく班遊び

7. 生命尊重の授業 助産師による講話

「いのちと心の授業」として、5年生が助産師の講話を聞いた。この授業は、「かけがいのない命」を大切にする心を育み、互いの命を尊重する態度を育てることをねらいとしている。講話を通して、児童一人一人が生命誕生の素晴らしさと命の大切さについて考えた。自分の大切さ、相手を思いやる気持ちを理解し、児童が新生児人形を抱き、体験を通して学んでいる。命の大切さや、母体の中での成長について、自らの命、成長と照らして心を耕す機会となった。

8. 2分の1成人式

この活動は、4年生の児童が、これまでの自分の成長を確かめるとともに、未来に向けて希望や目標を抱かせる機会となるよう、横断的な取り扱いによって実施している。この学習を通して、児童は大人へと成長する自分を支える教訓を得るとともに、保護者を迎えての2分の1成人式には、心から両親への感謝を表すよい機会となっている。

活動のポイント

- 特別活動、生活科、総合的な学習の時間を使って、様々な学校行事・学年行事・学級行事に画期的に取り組んでいる。この活動は、全て、思いやりの気持ちを育て、命の大切さを学ぶ活動である。
- わくわく班活動などの特別活動では、同学年の関わりを大切にしながら異学年とも交流し、協力する活動も行っている。

活動の成果

- 本校は年間を通して、思いやりの心を育て、命の大切さを学ぶ学習活動や体験の機会を設けている。その結果、感想文などで命の尊さを感じる表現が表れている。
- 様々な活動を通して、相手のことを思いやる気持ちが育ってきた。このことは、学校全体が活動に対するめあてをはっきりとさせ、児童に活動の場をもたせたことによる成果である。

今後の課題

- 今後も様々な活動を通して、保護者や地域の方と関わりながら、思いやりのある心を育て、命を大切にする気持ちを育成したいと考えている。